

二〇一四年度を終えて  
二〇一四(平成二十六年度)も間もなく終ろうとしております。入学試験も無事終えて現在の多摩キャンパスは卒業式を控えとても静かな佇まいを見せております。

今年度経済学部では、会報56号で紹介させていただいたグローバルリーダーズプログラム、海外インターンシップを開始し成功裡に終了しております。さらに産経新聞社の寄付講座のグローバルコンパスも後期期間中は担当学部となり全学部の学生を対象とした授業を実施いたしました。

白門経友会では、二〇一四年度総会を経て、会長に現学部長の谷口洋志教授が就任し、積極的に新たな活動に取り組んで参りました。十一月十四日(金)には新たに公開講演会を開催し高梨明宏常任幹事を講師として「心と頭の良くなるお話し」をテーマとして学生への学習動機づけに役立つ活動として好評でした。さ

らに今年度より会報を原則ホームページに掲載することにより従来より発行数を増やすことになり、本号を年度末ということで発行させていただいた次第です。

次年度に向けては、次頁で紹介した二〇一〇年度の卒業生の局(つぼね)幹事による、夢企画―中大生一人一人の夢を、種として育て上げる活動に本会の活動と連携していく所存です。

以上、会員の皆様におかれましても今後の一層のご支援をお願い申上げます。(副幹事長佐藤文博)



栗山啓一 教授、田中素香 教授、  
緒方俊雄 教授、杉原正勝 准教授  
(以上、定年退職)



## 第25回 白門経友会 定期総会のご案内

- |   |   |
|---|---|
| 1. 日 時 6月13日(土)午後2時開会<br>(2015年度より6月第2土曜日に変更します。)               | 4. 記念講演 14:40 - 16:10<br>講師 及び 演題 未定<br>※会場は定期総会と同じです。  |
| 2. 会 場 中央大学多摩キャンパス<br>7号館 7104 教室                               | 5. 懇親会 16:30 - 18:30<br>会 場 生協2階 ふらっと<br>会 費 OB(卒業5年以上) 10,000円<br>OB(卒業5年未満) 3,000円<br>現役学生 1,000円 |
| 3. 定期総会 14:00 - 14:30<br>①2014年度活動報告<br>②2015年度活動計画・予算案<br>③その他 |   |

原山 保 准教授(自己都合)  
また以下の任期制助教の方々が退任されますが、今後のご健闘、新しい場でのご活躍をお祈り申し上げます。(敬称略)荒井智行、増田公一、

小林和馬、永島 昂  
なお、経済学部の卒業式は三月二十五日(水)午後二時 場所多摩キャンパス第一体育館三階アリーナで行われます。また入学式は、四月一日(木)午前十一時より前期と同じく第一体育館で開催されます。

次年度の総会は、開催日を従来の六月の第一週から第二週の土曜日に変更させていただきます。場所等は下記にご案内させていただきました。

### 総会のお知らせ

次年度の総会は、開催日を従来の六月の第一週から第二週の土曜日に変更させていただきます。場所等は下記にご案内させていただきました。

次年度の総会は、開催日を従来の六月の第一週から第二週の土曜日に変更させていただきます。場所等は下記にご案内させていただきました。

## 中大学生の「夢」を無駄にさせない。

### 中央大学「夢」企画

二〇一〇年卒 局 芳曉

二、人は忘却の動物だ。



この度、白門経友会のメンバーの局(つばね)氏の「夢」企画という活動を本会の活動の一環として連携、協調することになりました。以下、局氏より紹介していただきます。

この活動は、一言で言えば、中大学生一人一人の夢を、種として育て上げる活動です。夢に「」がついているのは、【ある特定の】と一人の夢が、誰とも同じではないという意味を持たせています。

この度、白門経友会のメンバーの局(つばね)氏の「夢」企画という活動を本会の活動の一環として連携、協調することになりました。以下、局氏より紹介していただきます。

この活動は、一言で言えば、中大学生一人一人の夢を、種として育て上げる活動です。夢に「」がついているのは、【ある特定の】と一人の夢が、誰とも同じではないという意味を持たせています。

中央大学のご出身で、中央大学に入ればあのようなカッコいい姿になれるかなと思い、願書を提出したわけです。

### 五、あの日掴んでくれた先輩に感謝

この中央大学「夢」企画という活動は、あらわれています。あの時、私が掴まれていなければ、また忘却の動物となり、世に下つて行つたでしょう。私はその時の感謝を、後輩に伝えていいるのです。

中央大学のご出身で、中央大学に入ればあのようなカッコいい姿になれるかなと思い、願書を提出したわけです。

この中央大学「夢」企画という活動は、あらわれています。あの時、私が掴まれていなければ、また忘却の動物となり、世に下つて行つたでしょう。私はその時の感謝を、後輩に伝えていいるのです。

中央大学のご出身で、中央大学に入ればあのようなカッコいい姿になれるかなと思い、願書を提出したわけです。

### 【活動内容】

#### 一、アンバサダーマーケティングを利用した「夢」の促進

それは、中央大学「夢」企画は何をしてい

ており、インターネットの可能性を研究して

いる身です。その中で、アンバサダーマーケ

ティングという手法があります。これはかつて、レッドブル社が販促で利用した手法です。

まずは、背景として、インターネットの普及に

より、テレビやラジオ等のマスメディアでは

広告効果が測りにくいということがわかつた

ということがございます。インターネットで

そのような、情報の扇動の可能性が秘めら

れた中、具体的に例を申しますと、就活と検

索エンジンに打ち込めば、リクナビやマイナ

ビが出てきます。そうすると就活性は、就活

するのであれば、リクナビかマイナビかなと

いう決定を下します。しかし、視野を広げて

みると、身近なところでは中央大学キャリア

センター、八王子市の産業振興課などでも就

活の支援は十二分にやっているのです。そ

んな事例が多々存在しております。そんな

### 【経緯】

#### 一、どうして大学に入学した?

私は二〇〇六年に中央大学へ入学いたしま

りました。ただ家と大学の行き来を繰り返し

ている毎日でしたが、世の常の挫折をきっかけに、もう一度「カッコよさ」について考え

るようになつたのです。そんな私を天の神様

は見ていてくださつて、一人の先輩を通して、本当に自分がやりたいことは何なのか、成長

するとは何なのかを学ぶ機会を下さいました。

#### 四、同じ日だが、違う日だ。

それからの学生生活はとてもとても楽しい

毎日でした。同じ授業を受けたとしても、違

う授業に感じ取られ、全てが私自身の成長の

ために語られている内容に思えたのです。一つ

は、クリック数や閲覧時間を測るので、打つ

た広告の効果が具体的に数値化されるので

す。そんな中、企業はどのようにマーケティ

ングをするようになったのか、それが自社商

品に興味のある特定の人物にダイレクトで販

売活動をし、その周りの人物に購買活動を促

進する、それがアンバサダーマーケティング

です。

#### 二、ソーシャルネットワークシステム

(SNS)が可能にした個人の可視化

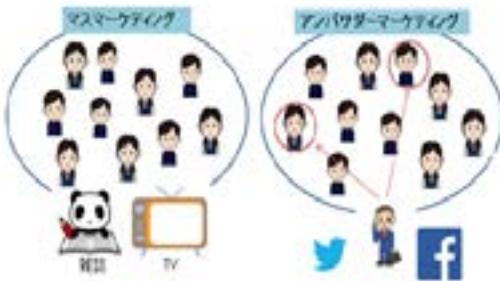
時に、視野を開くためにアンバサダーマーケ

ティングを利用しておられます。

#### 四、SNSを用いた

##### アンバサダーマーケティング

中央大学「夢」企画は、JOHO → ナビというホームページを用いて、中大生の情報プラットホームを作成しております。そこに集まる中大生の中で、かつて私と同じような境遇にたつた学生を探しております。前段と同様にたつた学生を探しております。前段と同じ例を用いれば、「就活したいな、どうしたらいいのだろう」という書き込みがSNSにされれば、中央大学キャリアセンターを用いることで、駄々に交通費もかからず、OBOG訪問などもでき、より効率の良い就職活動ができるようになるということを伝えてあげることで、無暗な就職活動をせずに済むわけです。同時にその生徒の周知にも繋がり、全体的に効率の良い就活、中央大学の利点を活用した活動ができるようになります。



#### 五、SNSが可能にした

##### OBOGの在校生へ関わり

Twitter & Facebookは、今まで環境的要素で果たせなかつた在校生とOBOGの関わりを可能にさせました。大学生活を終えると、東京に残る学生ばかりではありません。地方へばらばらに飛んでいき、中央大学からは遠ざかってしまう方たちがいます。ですかね、中央大学には数多のOBOGがおりますが、なかなか会話もすることができず、大学生活や社会生活のアドバイスまでOBOGOが関わってすることができるのは難しいことが常でした。在校生が進もうと思つてゐる道が、身近な人におらず、盲目的に進まさるを得ないようになつておりました。そこをFacebookやTwitterは検索をかけるだけで、OBOGが見つかるようにさせたのです。

#### 六、そう思った時、

##### 感じた時が、やるべき時だ。

しかしながら、私が様々な学生と接する中で感じたことは、「夢」を「夢」と思わず、冗談のように吐き捨てるという現状です。何かをしたいと思った時、それが戯言かのうよう思つてしまつてゐるのです。極端な例を出せば、例えば、アナウンサーになりたいという子がいたとしたら、目の前にはアナウンサーは端正な容姿をしていないとなれないのではないか?という現実が立ちはだかっています。そうなるとその子はその夢を戯言としてゴミ箱にいれてしまうのです。

#### 八、そうして動いている子たちがいる

そうして動いている生徒が既にいます。やりたいと思つていたが、実現できずにいた生徒に少しのアドバイスや方法を与えるだけで動きだす現状を私は目の当たりにしました。その活動は、隨時取り上げて、皆様にも認知して頂けるように致します。今の段階では公表できる内容は御座いませんが、是非楽しみにして頂ければと思います。

##### 【最後に】

マザーテレサは日本を見てこういつたそうです。「日本は物質は豊かだが、心が貧しい。」現在、日本は物質的にはとても溢れている国だと私は感じています。世界の中で経済的に

しかし、分かる人は分かっています。アナウンサーの本質を問えば、伝える仕事です。

5本の指にも入つてゐるし、生命の危機もな

い、他国への援助もできます。でも今、その溢れた国に、人はさまよっています。ですかね、人生の先の先まで貢き通せるような「グローバルなビジョン育成メディア」をまず

伝える仕事であれば、幾多にも選択肢がある。それをその時、その瞬間教えてあげるだけで、その子はその「夢」を諦めずに済むのです。

#### 七、その時を探している

ですから、中央大学「夢」企画は、その時を探して動いています。その時を掴むことができれば、大学の万全なるサポートも整つてゐるし、OBOGとしてアドバイスできること

がたくさんあります。何より、中央大学に行つたことでやりたいことができなかつたと思つてほしくないのが本質としてあります。かつて私が「カッコよくなりたい」と思つた時に掴んでくださつた先輩がいたように、その役割をやろうと思つてゐるのです。

#### 【中央大学「夢」企画】で検索!!



## え、あの先生がシリーズ⑯

経済学部准教授 伊藤伸介



経済学部の伊藤伸介と申します。二〇一四年四月より中央大学に赴任いたしました。専門は経済統計学で、本学経済学部では、「経済統計」、「入門統計演習」等の講義を担当させていただいております。

私の出身地は福岡県福岡市で、小学校時代までは中州・川端地区の近くに位置する博多の「下町」で過ごしていました。中州の中心を通っている那珂川の近くに博多リバーラインという大型商業施設がありますが、当時(一九八〇年代前半)は下川端通りというアーケード商店街であります。小学校の頃は、そこでよく遊んでいたことを思い出します。また、私が住んでいた「下町」のエリアでは、毎年七月に博多祇園山笠が開催されますが、私も小学校時代に山笠に参加したことがあります。私の趣味の一つは、東京散策とりわけ下町や商店街を散策することですが、こういった趣味は、自宅の周辺に商店

街があり、近所の駄菓子屋でモノを買うのが日課であった、私の幼少時代の生活環境と無関係ではない気がいたします。

私は、その後、大学院までの時期

を福岡市で過ごしましたが、テレビや新聞等で目にする東京に対してはどこか別世界のイメージを持つていました。初めて東京を訪れたのは、一七歳の頃でしたが、新宿等に代表

される街の大きさとあまりの人の数の多さに圧倒されたのを今でも覚えています。その後、独立行政法人日本学術振興会特別研究員(PD)として法政大学日本統計研究所に在籍することになりました。そこで、東京に引っ越すことになりました。東京でいざ生活してみると、外から眺めていたイメージとは大きく異なり、東京都が人口一千万人以上の大都会であるという一面だけでなく、数多くの大小様々な街の集合体であるこ

と、さらには、多摩地域に代表されるようない山に囲まれたのどかな風景が東京にも残っていることを実感しました。

ところで、東京に限つたことではないのですが、街にはそれぞれ地域としての独自性があると考えます。例えば、地域の商店街は、単なる商

業店舗の集まりというだけでなく、地域のコミュニティとしての機能を備えており、それが地域の独自性の必要性を痛感しています。こう

の意味では、大学が街の独自性に果たす役割も小さくありません。学生や教員がその街において単に消費者として機能するだけでなく、より積極的に街に関わるようになれば、その地域の活性化にもつながるよう

気がします。したがって、地域の発展において、大学と地域の関わり方は重要な意味合いを持つことになると考えています。私は、中央大学に赴任してまだ一年ほどしか経っていないが、中央大学が多摩地域と今後も関わり合うことによって、多摩地域の独自の街づくりに中央大学がどういった形で貢献できるのかを教員の一人として考えてみる必要があるのではないかとの思いを強く持っております。

### 【編集後記】

夢は現実から飛躍した発想だからこそ魅力的です。他方、夢を現実にするためには堅実な発想が必要です。一人の人が方向性の異なる二種類の発想を同時にすることは難しい。だからこそ、思いがけない人同士の出会いが大切です。そうした出会いの中でこそイノベーションも生まれます。総合大学である中央大学がそうした出会いの場となることを期待します。濱岡剛(常任幹事)

2015年3月20日 第57号

発行 白門経友会常任幹事会  
編集 白門経友会編集委員会  
編集長 鈴木秀男  
〒192-0393  
東京都八王子市東中野742-1  
中央大学経済学部内  
URL: [www.wg-keiyukai.com](http://www.wg-keiyukai.com)  
Fax: 042-673-3425